

会 議 録 ( 1 )

会 議 の 名 称	令和4年度 第3回入間市文化財保護審議委員会
開 催 日 時	令和5年3月29日(水) 午前10時開会・午前11時30分閉会
開 催 場 所	入間市博物館 会議室
議 長 氏 名	鹿島 英明
出席委員(者)氏名	鹿島 英明 枝窪 邦茂 柳澤 かほる 梅津 久昭 荒牧 澄多 小峰 孝男 青木 和子 児玉 俊雄 工藤 宏 小野 一之
欠席委員(者)氏名	
説明者の職氏名	博物館主幹 大久保 卓
会 議 次 第	(すべて公開) 1 開 会 2 挨 拶 3 議 題 (1)指定文化財の候補について〔資料1〕 4 報 告 (1)旧黒須銀行復元修理事業の状況について〔資料2〕 (2)新規指定文化財の指定について〔資料3〕 (3)その他 5 その他 6 閉 会
傍 聴 者 数	0人
配 布 資 料	資料1：入間市指定文化財候補一覧 (1) 会田津満の全国巡礼関係史資料 (2) 狭山茶大茶樹(老茶樹) 資料2：旧黒須銀行復元修理事業の状況について 資料3：入間市指定文化財の新規指定について
事 務 局 職 員 職 氏 名	・教育部部長 浅見 嘉之 ・教育部次長 佐藤 政史 ・博物館館長 澤田 和也 ・博物館主幹 大久保 卓

	・博物館主事 石井 美波      ・博物館主事 中村 祐太
会議録作成方法	要点筆記

## 会 議 録 ( 2 )

議事の概要 (経過)・決定事項	
議 題	3 議 題 (1)指定文化財の候補について〔資料1〕
決 定 事 項	3 議 題 (1) 指定文化財の候補について 「会田津満の全国巡礼関係史資料」及び「狭山茶大茶樹（老茶樹）」について、指定文化財候補として推薦した委員からの説明により審議を行った。次回以降、現地視察を行うなど、審議を継続していくことになった。

会 議 録 (3)

発言者	発言内容
鹿島委員長 事務局	<p>3 議 題</p> <p>(1) 新規指定文化財の候補について</p> <p>新規指定文化財の候補について事務局より説明をお願いします。</p> <p>令和4年度から新たに委員になった方もいることから、改めて指定文化財の候補について情報提供をお願いしたところ、工藤委員より2件の文化財の推薦がありました。それぞれ工藤委員より推薦理由の説明をお願いします。</p>
工藤委員	<p>「会田津満の全国巡礼関係史資料」</p> <p>会田津満が寛永元年から安政2年の間（1848～1855）に、全国の380か所以上の寺社を全国行脚巡礼した際の史資料です。津満は、根岸生まれの女性で、宮寺に嫁ぎ、50歳を超えてから全国巡礼をはじめました。北は仙台の瑞巖寺、南は鹿児島まで巡礼をした記録が残っています。名称を史資料としたのは、納経帳などの紙資料以外に墓石等も含んでいるためです。一人の女性が7年もの歳月をかけて全国行脚を行ったという点が、他に例をみないことから推薦いたしました。</p>
鹿島委員長	<p>「狭山茶大茶樹（老茶樹）」</p> <p>中村家の初代権左衛門が、慶長年間（1596～1615）に山城国宇治地方（現京都府）から携えてきた茶種を庭先に蒔いたものが成長し、往時には樹高5mになったと伝わっています。残念ながら昭和10年代に枯死しましたが、現在は母樹の種子から育った茶樹が同地に現存しています。同地区は入間市で初めて集団茶園が作られた地域であり、明治43年には農商務省の茶樹栽培委託試験場にもなった場所です。多くの人が見学に来たことも記録されており、牧野富太郎博士も見学に来ています。狭山茶の産地としてシンボルともなる存在であり、今回推薦いたしました。</p>
小峰委員	<p>推薦があった2件について、まず「会田津満の全国巡礼関係史資料」からご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
工藤委員	<p>中世や近世における廻国巡礼では、行者や六部などの人々の記録が残っています。また、幕末になると遊山的な要素も出てきますが、会田津満はどのような階層の人だったのでしょうか。</p>
枝窪委員	<p>会田家は普通の農家であり、特に富裕層というわけではなかったということです。津満の実家も裕福な家ではなかったとのことで、巡礼における資金の出所は不明です。ただし、納経帳の日付を見ると、所々で期間が開いている時期があります。これは路銀を稼ぎながら巡っていたという推測も立てられます。また、四国の巡礼では、四国特有のお接待文化に助けられたのではないかと考えています。</p> <p>近世の旅日記等を見ていると治安もそこそこでお金をかけずとも、そ</p>

会議録(4)

発言者	発言内容
工藤委員	<p>れなりに旅ができたように感じます。歴史の授業で習ってきた、「農民は重税にあえぎ娯楽もない。」という印象が変わります。</p> <p>近世の社会史から見ると、やはりおおらかには暮らせない時代だったことが分かります。当時の50代は健康年齢でいえば高齢者の部類に入ると思いますが、それでも巡礼を成し遂げるといふ津満の意志の強さに惹かれます。</p>
小野委員	<p>まず、女性が長期間巡礼に出ている記録というのは例がないため貴重だと思います。資金面については代表参拝のように宮寺地域の協力もあったのではないのでしょうか。護符等を持って帰ってきたのも地域の人へのお土産としていたのかもしれませんが。指定することによって研究が更に広がるのではないかと思います。</p>
柳澤委員	<p>なぜ多くの史料を確認することができたのでしょうか。</p>
工藤委員	<p>現在史料については、入間市博物館で保管されています。これは市史編纂の際に所在を把握し、所有者の方とのつながりの中で寄託していただいたものです。</p>
枝窪委員	<p>これだけ多くの寺社を巡っているのに、伊勢神宮の参拝の記録がありません。</p>
工藤委員	<p>巡礼の記録については、納経帳に記載があるものだけです。参拝しても貰えない場合もあります。また、後世になって廃棄してしまった可能性もあり、道中日記や経費の記録なども残っていたかもしれません。</p>
鹿島委員長	<p>ほかにご質問のある方がいないようでしたら、次に「狭山茶大茶樹(老茶樹)」について、ご意見・ご質問をお願いします。</p>
柳澤委員	<p>いまの茶樹は、母樹の接ぎ木や挿し木により成長したのではなく、種子から育ったということですが、実生では他の茶樹の花粉が影響することから、母樹のDNAを直接引き継いでいるとは言えません。現在の茶樹は、いつ頃の種なのでしょう。他にもこの地域には茶の樹はあったのでしょうか。</p>
工藤委員	<p>現在の茶樹の樹齢については、正確には分かりませんが、100年は超えていると考えています。同地区には明治10年頃から集団茶園があった記録がありますが、それ以前にはあまりなかったのではないかと推定しています。日本の茶樹は中国種が多く、5mを超えると寿命と言われております。大茶樹も寿命によって枯れてしまったと考えられます。</p>
梅津委員	<p>今回の推薦理由については、現在は枯れてしまった茶樹のことが中心になっています。しかし現在の茶樹も、長い時間をかけて現在に繋がっている樹であるということでしょうか。</p>
工藤委員	<p>植物学的に考えると、難しい部分は多いです。しかし、茶の歴史の中では、これほど大きな樹木は県内でも例はなく、伝説的な経緯と合わせ</p>

会 議 録 ( 5 )

発言者	発言内容
児玉委員	<p>て貴重であると考えています。            純粹にDNAとして価値があるのでしょうか。牧野富太郎博士も来訪したとのことですが、採集に来たのですか。</p>
工藤委員	<p>日記を見ると見学に来ただけのようです。牧野博士はそこまでお茶に興味はなかったみたいです。</p>
鹿島委員長	<p>ほかにご意見などがなかったら、今回の審議はここまでにしたと思います。</p>
事務局	<p>次回の令和5年度第1回会議は6月下旬の開催を予定しています。その際に現地確認により実物を見ていただき、さらに審議を深めていければと考えております。なお、ほかにも委員の皆様において本会で情報共有をしたい文化財がありましたら、5月中旬までに事務局へ資料を提出してください。</p>
事務局	<p>4 報 告            (1)旧黒須銀行復元修理事業の状況について            これまでの課題の一つである財源の確保について、昨年実施したクラウドファンディングにおいて300人以上の支援者のご協力のもと、目標額を上回る593万円を集めることができ、まずは第1段階の財源の確保を達成しました。これにより令和5年度の当初予算において工事費が認められ、令和5年度と令和6年度の2ヵ年継続事業として、復元修理工事を行ってまいります。なお、工事の開始は9月以降を予定していることから、それまでの間はイベントを行っていきます。修復後の活用方法については、皆様からのご意見をいただければと考えております。            なお、復元修理の詳細についてですが、外観は、創建当時への復元を行ってきます。具体的には窓に鉄格子を取り付け、屋根には小谷田瓦を葺き、外壁は黒漆喰に戻します。西側の増築部は、創建当時にはなかったものであることから、外観から分かるものにしていきます。なお、保存とともに活用をしていく施設であることから、裏口に利用者用のスロープを設けます。また、消防法の関係から排煙窓等も必要になりますが、目立たない位置を中心に配置していきます。館内については、主屋は復元を中心に考えており、階段は創建当初の位置に戻します。付属屋は展示スペース等を設けて活用するとともに、増築部には来館者が快適に利用できるようにトイレを新設します。なお、裏側の敷地については、様々なイベント等で活用できる場として考えています。            敷地には、現在の建物以外にも複数の土蔵等が建っていました。当時のイメージを伝えるうえで、ぜひ位置等が分かる工夫をしてください。            整備の段階で検討していきます。</p>
工藤委員	<p>敷地には、現在の建物以外にも複数の土蔵等が建っていました。当時のイメージを伝えるうえで、ぜひ位置等が分かる工夫をしてください。</p>
事務局	<p>整備の段階で検討していきます。</p>

会 議 録 ( 6 )

発言者	発言内容
荒牧委員 事務局	屋根は小谷田瓦に復元するとのことですが、手に入るのでしょうか。解体した土蔵で使われていた瓦が敷地内に残っていますので、それらを使用していく予定です。ただし、全てを使用できるわけではありませんので、不足するものについては再現していく想定です。
荒牧委員 事務局	付属屋も指定文化財に含まれているのでしょうか。指定文化財の範囲となっています。
荒牧委員	まだ創建当時の復元が足りていないと思われるので、現状のままではどうかと思います。設計図では裏側を入口としていますが、正面からは入れなくなるのでしょうか。
事務局	現時点では、建物裏手を出入口にすることを想定していますが、正面側につきましても検討していきます。
事務局	(2)新規指定文化財の指定について 前回の会議まで審議をいただいていた「古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬」が、市教育委員会において新規指定文化財の議決を受けました。指定日は令和5年4月1日となります。今後5月30日から6月18日にかけて、博物館の特別展示室において、新規指定展示を行う予定です。
事務局	(3)その他 2月18日に小谷田の氷川神社において、3年ぶりとなる文化財防火訓練を実施しました。今回の訓練では地元住民や消防団を中心とした取り組みを行い、地域で文化財を火災から守っていく機運を高めました。 3月3日に入間市博物館が文化庁の「食文化ミュージアム」に認定されました。日本古来の食文化を次世代に継承していく目的で設置され県内の博物館では初の認定となります。また、狭山茶も「100年フード」に選ばれています。本市とともに狭山茶の主産地である所沢市や狭山市などの近隣市とも連携して盛り上げていきたいと考えています。 次回、令和5年度第1回の会議は、6月下旬を予定しております。

事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 5 年 5 月 20 日

議 長 の 署 名

鹿島英明

議長が指名した者の署名

梅津久昭